

(財)地震予知総合研究振興会

柏崎地域の地形及び地質構造の形成過程に関する検討委員会（第七回）

概要報告

1. 日時 平成24年 3月 1日（木） 13:30～16:30

2. 出席者

主査	山口大学大学院	教授	金折 裕司
委員	産業技術総合研究所	グループ長	荒井 晃作（海洋地質）
	東京大学地震研究所	助教	石山 達也（変動地形）
	帝京平成大学	教授	伊藤 谷生（構造地質）
	海洋研究開発機構	グループリーダー	高橋 成実（海域地殻構造）
	産業技術総合研究所	研究員	丸山 正（活断層）
	徳島大学大学院	教授	村田 明広（構造地質）

事務局 (財)地震予知総合研究振興会

(敬称略)

3. テーマ

(1) バランス断面図と衝上構造

(2) その他

4. 委員会の状況

バランス断面図に基づく地質構造発達史の検討事例の紹介と柏崎地域の地質構造への適用の可能性について議論がなされた。

(1) バランス断面図と衝上構造

バランス断面図は褶曲構造が発達する地域の地下構造の推定に有用であることから、バランス断面図の考え方や他地域における適用例が紹介された。

バランス断面図の考え方をを用いると、柏崎地域でみられる背斜構造の一部は、地下深部の水平な断層（デコルマ）から立ち上がる衝上断層により形成された断層伝播褶曲である可能性が示された。

柏崎周辺地域の地質構造解析に関しては、「衝上断層があって、その断層関連褶曲として褶曲が形成されている」という方向性を基本路線とし、当地域を褶曲・衝上断層帯として地質構造の形成を考察していくことが重要であるとの意見集約がなされた。

(2) その他

これまでの検討委員会では当地域に関する既往データを網羅的に紹介してきたが、今後も引き続き、現在進行中の「ひずみ集中帯プロジェクト」等の最新の研究結果を適宜含ませつつ、各種データを総合的に解釈し、地形及び地質構造の形成過程に関して考察していくことを確認した。

以 上